

千葉市ふれあい自然観察会

市の鳥コアジサシと海辺の生き物観察

梅宮玲子（市原市）

日 時：2023年5月20日（土）10時から12時 天気：曇り

場 所：千葉市検見川浜

参加者：24名（大人14名、子ども10名）

担当指導員：田島 平田雅 中田 梅宮、伊藤（事務局） 指導員1名

やや涼しい曇り空のもと、検見川浜で「市の鳥コアジサシと海辺の生き物観察」を2班に分かれて開始しました。最初に田島さんから注意事項としてセアカコケグモや海の危険な生き物の対処方法、中田さんのコアジサシのクイズをして海辺に移動しました。

コアジサシのロープで囲まれた営巣地付近上空にコアジサシが集団で飛んでいる姿や、地面でじっと卵を抱えている？ 様子を双眼鏡や裸眼で観察できました。他にもよく目をこらさないと見えないシロチドリ、すばやく飛ぶツバメ、ハシブトカラス、カワウもいました。

浜辺に移動すると、みんなヤドカリ、カニ、貝など夢中になって採集しはじめました。少したってからヤドカリ競争（受け皿の中心から、早く円の外に出たら勝ち）は子どもたちに大人気。ヤドカリの形によって、移動するスピードがいろいろなのが良くわかりました。

最後にみんなで集めた生き物を種類別に仕分けして、田島さんが順々に紹介。（フナムシ、イボニシ、ガザミ、イシガニ、イソガニ、タカノケフサイソガニ、モズクガニ、ユビナガホンヤドカリ、ユビナガスジエビ、ハゼ、フジツボ、タテジマイソギンチャク、マンハッタンボヤ、ツメタガイの卵塊と貝殻、ミドリイガイ、タマキビガイ、スゴカイイソメの棲管、タマシキゴカイの卵のう、カンザシゴカイ、オオヘビガイ（貝殻）、アマモ、海藻類 etc）

タマシキゴカイの卵塊は透明でつるつるしていて、お話の間も子どもたちはずっと触って遊んでいました。また、食物連鎖を繰り返しながら水を浄化する様子の絵がとてもわかりやすく、循環されて環境が保全されている話を熱心に聞いていました。参加者の皆さんも自然に触れることの大切さをより身近に感じたようです。



コアジサシ（藤井さん撮影）



ヤドカリ競争